

課題解決に向けた行動計画

新百合ヶ丘総合病院

2022年度
第1回地域緩和ケア連携調整員研修（ベーシックコース）

【チームメンバー】

参加施設・所属	氏名（職種）
新百合ヶ丘総合病院 緩和ケア内科	中西 英世（医師）
新百合ヶ丘総合病院 緩和ケア内科	冬木 晶子（医師）
新百合ヶ丘総合病院 看護部	榎本 史子（看護師）
新百合ヶ丘総合病院 医療福祉課	嶋崎 晃（MSW）
新百合ヶ丘総合病院 医事課	坂本 有司（事務）

① 選定した地域の課題

1. 川崎北部医療圏では緩和ケア病棟が限られている。
2. 在宅医療・介護 ⇄ 緩和ケア病棟・緩和ケア外来の連携方法(役割分担や利用方法)等の周知、情報共有が進んでいない。
3. 上記を踏まえてがん終末期患者の緊急時対応の院内・院外連携も課題の1つである。

② どんな地域を目指すのか

1. 地域内のがん終末期患者・家族が安心して生活・療養ができる地域を目指す。
2. 顔の見える院内・院外連携が構築された地域を目指す。

③ 目指す地域を実現するために取り組むべきこと

1. 「地域の課題」と「病院の課題」を区別して整理把握する。
2. カンファレンス、症例検討会、セミナーの開催。
 - ①相互にフィードバックができる様にする。
 - ②デスカンファレンスの定期開催。
 - ③がん終末期在宅医療に係る多職種共同カンファの共催
→緊急時の対応にも役立つ。
 - ④セミナー開催時の対象職種の検討
→アンケート回答を参考に。
3. がん地域連携クリティカルパスの活用
 - ①診療情報提供書、サマリー+αの患者情報共有に取り組む。
4. 職種間連携の推進（Dr to Dr、Ns to Ns）
 - ①困った時にすぐに相談できる環境作り。
 - ②お互いの機能を理解し、連携方法・窓口を分かりやすく明確にする。
5. 地域の資源の見える化
 - ①患者、家族にとってもわかりやすいパンフ・リスト。

④ 具体的な行動計画と ⑤ 目標達成時期

1. セミナーの開催 1回／年
研修会 1回／年
在宅医との症例検討会・デスカンファレンス 2回／年
他施設多職種連携の会に積極的参加 2回／年
2. 緩和ケア病棟退院時にがん地域連携クリティカルパスの活用。
3. 各施設の担当者一覧とその業務、緊急時の連絡フロー図作成。
→がん相談支援センターの機能を充実させる。